

札管協

# まずは私たちを知つて

## 工高生対象にインターンシップ

「まずは私たちの組合を知つてほしい」

札幌市管工事業協同組合は、1月14、15日に、初めてのインターンシップを実施し、札幌琴似工高の生徒78人を受け入れた。この取り組みを第一歩とし、若年入職者確保対策を推進する考えだ。

同協組が佐藤安幸理事長の発意で若手育成特別委員会（委員長・春木孝満砂原設備工業社長）を発足させたのは昨年のこと。今回のインターンシップは同委員会と設備委員会が中心となり、札幌琴似工高電子機械科2年生を対象に企画した。

同委員会副委員長と設備委員会委員長を兼任する弘田安ふじ研究所専務は、工業高校訪問を通じて、組合にはどんな様子を見てすぐさま自席に

な会社が所属しどんな仕事をしているのか、学校側にはあまり知られていなかつたという事実に突き当たり、「業界側からのアピールが足りなかつた」と話す。

### 生徒は興味津々

1日目は講義形式で上下水道の概論を伝え、藻岩浄水場や創成川水再生プラザの施設見学も実施。2日目は企業26社の中から、札幌琴似工高生徒が2~4人ずつを受け入れ、自社の施工現場などを案内した。

月寒東小改築の衛生設備工事を担当するふじ研究所を訪れたのは4人。CADに触った技術部の黒川拓美さんは、「自分もまだ1年目だが、飛び込んでみれば教えてくれる人はいっぱいいる。知らない分、自分の成長も実感しや

く、全体を見学。生徒は初めて入る実際の現場に「興奮する!」と目を輝かせていた。

一方、機械が好きで工業高校を選び、就職希望の庄司太郎さんは「現場はすごかつたけど、こうした現場で自分がきちんと仕事できるのか不安を感じた」という。

現場では衛生設備だけではなく、全体を見学。生徒は初めて入る実際の現場に「興奮する!」と目を輝かせていた。

一方、機械が好きで工業高校を選び、就職希望の庄司太郎さんは「現場はすごかつたけど、こうした現場で自分がきちんと仕事できるのか不安を感じた」という。

2015年3月に入社したばかりで、現場見学に付き添った技術部の黒川拓美さんは、「自分もまだ1年目だが、飛び込んでみれば教えてくれる人はいっぱいいる。知らない分、自分の成長も実感しや

く、仕事の楽しみも見つけやすいと思う」とエールを送る」と期待。「水道でも監視装置など至る所に機械はある。電子機械科という学科に合わせて設備関連を積極的に紹介した」と今回のポイント維持部長は「とてもまじめ。

同協組の佐々木一義給配水管工道概論の講義を担当した紹介した」と今回のポイントを明かし、生徒に応じて話題を変え、関心を引く工夫が重い」という声もある。今回同様、一部を負担して支援しつづめていけば」と意欲的だ。弘田専務も「今回は設備系だったので、関係者の調整が可能なら土木系でもできるら」と拡大に期待を込める。

同校B組担任の中村浩一教諭は「地方ではインターンシップで生徒を受け入れてくれる企業が多いが、札幌では少ない印象。こうした機会は貴重」と話し、「丁寧に教えてもらえた。今後も機会があればぜひ」と期待している。



完成後は見られない配管類などに興味を示した

要と振り返った。

春木社長は生徒に人生、社会人の先輩として「お互いに仲間をつくって頑張って」と

### 拡大に意欲満々

あの姿勢なり良い技術者になる」と期待。「水道でも監視装置など至る所に機械はある。電子機械科という学科に合わせて設備関連を積極的に紹介した」と今回のポイントを明かし、生徒に応じて話題を変え、関心を引く工夫が重い」という声もある。今回同様、一部を負担して支援しつづめていけば」と意欲的だ。弘田専務も「今回は設備系だったので、関係者の調整が可能なら土木系でもできるら」と拡大に期待を込める。

同校B組担任の中村浩一教諭は「地方ではインターンシップで生徒を受け入れてくれる企業が多いが、札幌では少ない印象。こうした機会は貴重」と話し、「丁寧に教えてもらえた。今後も機会があればぜひ」と期待している。

初の受け入れということで、生徒たちの関心をどう引くか考えながらの実施となつたが、学校側から好感触を得ることができた。協組としての今後の取り組みが注目される。